

美術で一服(15)



化52 米田 浩二

にはいきませんでした。
「ウォーナー・リスト」

定年を機に油絵を描き始めました。暇に任せて美術の書籍を読んでいます。日本文化財の散逸に関してご紹介します。日頃の工学の世界は忘れて肩の力を抜いて一服してください。

「日本文化財は
何故海外に多く有るのか」

日本文化財の里帰りと銘打った美術展覧会がしばしば見られます。文化財の移動は戦争の歴史と言われるほど文化財と戦争は関係があります。文化財は戦利品として略奪されるからです。この事を考えてみると不思議な事に気が付きます。日本は2000年の歴史上他民族の侵略を受けた事は一度もありません。

世界戦も日清、日露、第一次大戦、第二次大戦と3勝1敗です。この第二次大戦でアメリカを中心とした連合軍に文化財を戦利品として略奪されたのでしょうか。第二次大戦では日本の大義と連合軍の正義の戦いが行われました。日本は『大東亜共栄圏』の大義を掲げて大陸へ侵略を続けます。西欧列強からの植民地化を防ぎ東アジアで共存共栄圏を築くという名目で侵略・略奪を繰り返していくのです。ドイツ、イタリア、日本の侵略戦争を阻止すべく26カ国の連合軍が組織されドイツにはイギリス、フランス、ソ連が主力になって戦い、日本にはアメリカとイギリスが主力になって侵略・略奪の阻止と国民の民主化を掲げて正義を押し通します。大義と正義の戦いが行われたのです。この第二次大戦でアメリカ連合軍に日本文化財は略奪されたのでしょうか。大戦の結果、正義を掲げて参戦したアメリカ連合軍は日本文化財を戦利品として略奪する訳

2017年2月11日、『美術家たちの太平洋戦争 日本の文化財はこうして守られた』がNHK BS1プレミアムで再放送されました。ラングトン・ウォーナーは、1903年ハーバード大学卒業後ボストン美術館で岡倉天心の助手を務め、研修候補生として日本に派遣されるなど東洋美術の研究を行った経験者です。第二次大戦中に、ハーバード大学付属フォッグ美術館にウォーナーをはじめ61人の美術研究者が集まり、敵国である日本の文化財を守る目的でリスト（ウォーナー・リスト）を作成したのです。ワシントンDCの「国立公文書館」にはこのウォーナー・リストが残っています。これには、日本の神社・仏閣（京都31件、奈良15件、東京26件）、岩崎・前田・住友・細川の個人コレクションや出雲大社、熊本城などが含まれています。1945年大戦も終盤の年にこのリストは米軍に送付されました。『日本空爆計画に関する機密文書』という機密文書の閲覧が現在可能になっています。この空爆予定地には、軍

需工場などの空爆標的が選定され、それらの緯度・経度も記載されました。この文書の中にカラーの地図があり、その緑色の部分がウォーナー・リストで空爆を行わない場所となっていたのです。これには東京では皇居・東京駅・靖国神社・上野公園・東京大学が、奈良では興福寺や法隆寺が含まれていました。東京大空襲では58カ所が無事で、全国的にはリストに載っていた場所の8割が無事だったのです。大阪大空襲は有っても京都大空襲はなかったのです。但し、このリストの目的は、戦後に旧ソビエトがドイツから戦時賠償として美術品を取ったように、日本の文化財を戦時賠償に充てるためという研究者もいます。何れにせよ正義を掲げて参戦したアメリカは日本の文化財を戦時賠償には当てなかったのです。後にウォーナーは『不滅の日本芸術』という著書を残して、日本美術に対する理解と敬愛の念を広く根付かせました。

「海外にある日本文化財」

戦時賠償で海外に渡ったのではないなら何故日本の文化財は海外に多くあるのでしょうか。それは、貿易に

よる美術品の正常な異文化の交流でした。異文化交流が特に盛んな安土桃山時代の『南蛮貿易』。江戸時代の鎖国状態でもオランダ商館を通しての販売が続きます。螺鈿や蒔絵の工芸品、絵画、版画、彫刻。それら以上に輸出されたのが陶磁器でした。この正常な販売が大きく崩れるのが明治維新。西洋文化の急速な導入によって日本の芸術品は瀕死の状況に追い込まれます。自国の芸術を卑下し、捨て値同然の価格で処分されていきます。このタイミングで明治政府から招請された芸術界の外国人たち。多くの先生方は日本文化に傾倒し芸術品を買い漁ります。絵画や彫刻の門戸を叩き弟子となる人物も多く出ます。特筆すべきは、動物学者のエドワード・モース。モースは日本で大森貝塚の発見者および縄文土器の名付け親として知られています。彼が、彼の来日目的は海棲生物の採集のためでした。彼は後に貝塚の発掘調査を行い、創立間もない東京帝国大学から発掘報告書を刊行します。これが日本考古学史上最初の学術的発掘調査とされています。3回の来日で通算2年半滞在することになります。この間、彼は日本の陶磁器や

各種民俗資料の収集に励んだのです。彼の紹介で日本に來た哲学者アーネスト・フェノロサ、医師ウイリアム・ビゲロー。鉄道王チャールズ・フリーアなどが芋づる式にやって来ます。同じく西洋芸術の指導で政府に招請された絵画のフォンタネージ、彫刻のラグーザ、建築のジョサイア・コンドル等々。日本美術に開眼した外国人たちは稀代の日本美術コレクシオンを構築していきます。彼等にとつては夢のような時代でした。この日本文化財の捨て値販売は1933年（昭和8年）の『重要美術品等ノ保存ニ関スル法律』施行まで約70年間続くのです。

「日本文化財の多い海外美術館は？」

何処の美術館が日本文化財を多く所蔵しているのでしょうか。簡単に紹介します。

ボストン美術館（マサチューセッツ州在）。海外にある日本美術のコレクションとしては質・量ともに最も優れた物として知られています。所蔵品数約50万点、内10万点が日本美術。この美術館は明治期の日本と直接関わりがあった人物たちの寄贈による美術品が多くあります。モー

スは収集した日本陶磁器約5千点を、フェノロサは数千点の収集品をボストン美術館に寄贈します。フェノロサの通訳として行動を共にした文部官僚・岡倉天心の所有物も寄贈されました。ビゲローは絵画4千点、浮世絵版画約3千4百点とその他多くをボストン美術館へ寄贈したのです。ビゲローのコレクションは幅が広く、金工、漆工、染織、刀剣・甲冑なども含まれています。

メトロポリタン美術館（ニューヨーク在）。1870年に開館。アメリカの経済発展を象徴する美術館です。建物はおろか美術品の所有物はゼロでした。寄付によって建造し、寄付で美術品の購入が始まります。明治の文化財の捨て値販売時期に当たります。日本文化財の個人のコレクションも次々に寄贈されます。経済力よって世界から集めた収蔵品数は激増し、関係者たちの努力の結果、現在では絵画・彫刻・写真・工芸品のほか家具・楽器・装飾品など30万点の美術品を所蔵しています。世界4大美術館の一つになりました。フリーア美術館（ワシントン在）。鉄道王フリーアは美術品に興味を持ちヨーロッパ、西アジア、エジプト、

インド、そして東南アジアに旅し、日本には5回訪問。特に興味を持ったのは絵画、陶磁器、茶道具だったといえます。生涯において収集した日本美術品は絵画、屏風、陶磁器など約2千点に上ります。

ギメ東洋美術館（パリ在）。国立の東洋美術専門の美術館。特に宗教美術品が多くあります。実業家エミール・ギメは東洋学、特に宗教に関心を寄せ自らアジア各地を訪れ遺物や美術品などを収集しました。日本には明治の神仏分離、廃仏毀釈による仏教寺院排斥の嵐の最中に来日して焼却の危機にあった膨大な仏像・仏具、仏画を収集しました。

2000年の歴史で他民族に一度も侵略されなかった日本。第二次世界大戦で敗北しましたが文化財は守られました。明治期に始まる日本美術の卑下により多くの芸術品は捨て値販売され欧米のコレクションとなります。それ等は現在美術館に寄贈され大切に保管され一般公開されています。奇跡としか言いようがありません。如何お感じでしょうか。